

CD クリーナーの効果(16) —シェルリード線への適用—

1. 始めに

前報(15)に引き続き、カートリッジのシェルのリード線について CD クリーナーの処理を行ってみます。

2. CD クリーナーの試聴計画

前報(15)でフォノケーブルの処理の効果を認めたことから、カートリッジのシェルのリード線の処理を行うことにしました。

対象は次のようなシステムのリード線です。

LINN LP-12 のシステムは次のような再生経路となっています。

LINN LP-12→【アンバランス/バランス変換コネクター】→バランスアナログ
アキュライザー→ZANDEN Model 1200 (バランス入力)

カートリッジは My Sonic Signature Gold です。

Garad401 のシステムは次のような再生経路となっています。

Garad401→My Sonic STAGE 1030→Leak Point 1

カートリッジは ZYX R100-EX です。

ThorensTD124 のシステムのカートリッジは Ortofon SPU Synergy でリード線は固定で、シェルのケース内に収納されており露出していませんので、リード線の処理は出来ません。

リード線の処理は CD クリーナーそのままでは実施しにくいので、CD クリーナーの一部を切り取り、割りばしを適当な長さに切り、その先を削って、切り取った CD クリーナーを巻き付けたものを作成しました。なお、これをもってしても、リード線をセットした状態では全面をぬぐうことはできず、ぬぐい残しがあります。



音源は次のアナログ盤とします。これらの盤は事前に CD クリーナーの処理をしておきます。

PHILIPS PC-1571-2

バッハ チェロ組曲

モーリス・ジャンドロン (チェロ)
ハルモニアムンディ ULS-312-H
ヘンデル 合奏曲集第7番・第9番・第10番・第12番
コレギウム・アウレウム合奏団

3. CD クリーナーの試聴結果

LP-12 のシステムの場合、シエルのリード線の CD クリーナーの処理を行いますと、以下のような結果が得られました。

バッハのチェロ組曲では、アナログ盤、アームなどの構成部品の処理、フォノケーブルの処理によって処理前でも、これまでの印象と違って、チェロの柔らかい響きの細かい表情が伺えます。リード線の処理を行いますと、前報(15)のフォノケーブルの処理ほどではありませんが、チェロの柔らかい響きに加えて、細かいメリハリがついてきます。

ヘンデルの合奏曲集では、アナログ盤、アームなどの構成部品の処理、フォノケーブルの処理によって処理前でも、これまでの印象と違って、バロックアンサンブルらしい切れ味のよい表情が見えます。リード線の処理を行いますと、前報(15)のフォノケーブルの処理ほどではありませんが、切れ味に加えて滑らかさがでてきます。Garad401 のシステムの場合、シエルのリード線の CD クリーナーの処理を行いますと、以下のような結果が得られました。

バッハのチェロ組曲では、アナログ盤、アームなどの構成部品の処理、フォノケーブルの処理によって処理前でも、これまでの印象と違って、チェロのボウイングの細かい表情が伺えます。リード線の処理を行いますと、前報(15)のフォノケーブルの処理ほどではありませんが、チェロの音の滲みが後退し、クリアーになってきます。

ヘンデルの合奏曲集では、アナログ盤、アームなどの構成部品の処理、フォノケーブルの処理によって処理前でも、これまでの印象と違ってバロックアンサンブルらしい繊細な響きが出ています。リード線の処理を行いますと、フォノケーブルの処理ほどではありませんが、音が滑らかになり、歯切れもよくなり、弦楽合奏に隠れていたチェンバロの音が浮かびあがってきます。

なお、事前の盤の処理においては、前報(4)と同様の効果があったことを付け加えておきます。

4. まとめ

上記 2 システムによるアナログ再生において、シエルのリード線への CD クリーナーの処理の効果を認めました。アナログ再生については、これまでのアナログ盤、アームなどの構成部品の処理、フォノケーブルの処理に加え、フォノケーブルの処

理の時ほどではありませんが、さらなる上乘せ効果が得られることが分りました。

以上